

2022年度 第45回 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会水球 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2023/3/30】

C決勝

京都踏水会

8

2	—	2
2	—	1
3	—	1
1	—	3

7

松任中学校

PSO

審判： 中村 友美
松本 千菜津

京都踏水会	18	SH数	21	松任中学校
	3	速攻数	3	
	5	ST・SB	5	
	4	SH・P誘発アシスト	12	
	42%	GK阻止率	43%	
10	EX反則数	7		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
京都踏水会	62	38	17	16	26	29	13	4	17	52.8%

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
松任中学校	75	51	26	24	31	29	22	18	22	53.2%

【試合の流れ】

年末の桃太郎カップを制したメンバーが中心選手にいる踏水会は、安定した試合運びで順当に決勝進出してきた。今大会ナンバーワンの攻撃力を誇る松任中は**8**下田、**10**畠山、**11**山本トリオの破壊力が持ち味。両チームともにGKを含めた守備力はほぼ互角。決勝戦は、松任中攻撃時の反則(コントラ)がやや多いことから、こうした反則を踏水会が突いていけるかどうか勝負の分かれ目になることが予想される。

1P

試合開始早々、**10**畠山のセンターシュートで松任中が先制。しかし、京都踏水会は失点直後にトップ位置で**2**山本が決めて同点にし、ピリオド終盤には**7**沼井がペナルティファウルを誘発し、**3**大前が落ち着いて決め、踏水会がリード。しかし直後に松任中も**10**畠山のセンターシュートで追いつく展開となった。京都踏水会**3**大前、松任中**10**畠山を中心とした攻撃でミスなく確実に得点することがこの試合の展開を左右しそうだ。

2P

序盤は両チームともシュートまで打たせない強いディフェンス体制を敷き、得点に結びつかない展開となった。特に松任は踏水会**3**大前にダブルマーク守備で対応。しかし、こうした徹底マークに合う踏水会は**3**大前の陰でフリーになった**5**吉田や**4**中井がシュートを決めてゲームの流れを引き寄せた。松任もピリオド終盤に**10**畠山の個人技でペナルティを得て、1点差として前半を折り返した(京都踏水会4-3松任中)。踏水会のエース**3**大前、松任の中心トリオが試合を作り、両者譲らない戦いとなっている。

3P

ピリオド開始直後に、懸念されていた松任中の攻撃中のコントラ反則から踏水会**3**大前の個人技で得点して、突き放す展開に。更に続けて松任中のコントラ反則から**5**吉田が左から決めて、この2連続得点で踏水会が優勢となった。これ以上突き放されたくない松任は**9**藤村のドライブを起点に攻撃を仕掛け、退水を誘発して**8**下田が得点。しかし、松任側のパスミス、キープミスが増え、踏水会が優勢に立った。松任のミスから流れをつかんだ踏水会が7-4でリードしたまま最終ピリオドを迎える。

4P

ピリオド序盤はなかなか得点がない展開だった。3ピリオド目の点差を挽回すべく、松任が反撃に出る。**8**下田が左からドライブを仕掛け、退水を誘発。その後**11**山本から**10**畠山への的確なパスを出し、得点。この得点を機に流れが松任側に。松任は踏水会エース**3**大前を3人でマークし、シュートを打たせない。その後、**10**畠山と**8**下田のコンビネーションプレーや**9**藤村の積極的なドライブで立て続けに得点。必死で点差を詰めたが、8-7で踏水会が逃げ切って勝利した。

松任**10**畠山、踏水会**3**大前がそれぞれ相手のチームの脅威となり、常に会場を沸かせるプレーを披露したが、試合としては戦前の予想通り、3Pの松任中の攻撃時反則が命運を分けた形となった。